



富士見市立東中学校

4月号

こ ち  
東中だより 東風



『夢や希望をはぐくみ、一人一人が輝く学校』を目指して

巻頭言

校 長 菅野 誠一

### 花笑みと花明かりに

夢のように美しく咲き、儂く散っていく桜は「夢見草」とも言われます。「去年の春もここで桜を楽しんだなあ。一年経ってまた春が来たんだなあ。」春風のリズムでゆさゆさと大枝を揺らせている優美な満開の桜を夢見心地で眺めていると、ある和歌が思い出されてきます。『花の色は昔ながらに見し人の心のみこそうつろひにけれ』（元良親王）「桜の美しさは昔からずっと変わらない。変わるのは、それを見る人の心だ。」と、人心の定めを言い当てている古（いにしえ）の歌の目方を“時間軸”と“空間軸”で量（はか）ると、この言葉の重厚感は計（はか）り知れません。そして、桜の自然美のように、人の美意識や心の清澄さも悠久でありたいという思いが募ってなりません。

また、桜への心の傾倒には、アンコール型とリハーサル型のふたつがあることに気づきます。あの年代、あの年頃で見た桜の原風景に、過ぎし日を追憶します。懐かしく遠い日々を「アンコール！」と桜にせがむと、桜花がぽつりと告げます。「人生はらせん階段にそっくりです。季節はめぐってきてても、あの日はもうめぐってきません。」と…。人々の足を止め、目を止める桜でさえも、時間は止められないことを自分に言い聞かせます。一方で、「♪サクラさいたら いちねんせい♪」そんな歌を新生活の主題歌として口ずさみながら見上げる初桜の新風景に、「一年生の気持ちで初心に戻って、満開桜のように自分を大きく開かせ、大いに満たすぞ。」という心組みが、新たな環境で過ごす上での準備、リハーサルとなっていくほどです。「♪ドキドキするけど ドンといけ♪」と、歌に勇気づけられて桜色のスタートラインに立つと、『ドキドキドン！』の曲名の響きが「よーい、ドン！」のスタート合図にも聞こえてくる新年度の始まりでもあります。

柔らかな『花笑み』で、コロナ禍の人々の眼差しを受け止め、励ましてくれる桜木の下からは、地面に顔を出した土筆（つくし）が筆となって、土にこう書くかのようです。「全力を尽くしましょう。人にも尽くしましょう。」“尽（つ）くし”の音が、桜並木の明るい“トンネル”に響き渡る中、桜の『花明かり』が、真っ暗な“コロナのトンネル”の見えない出口をドンと照らし出してくれる期待感でドキドキする、そんな春です。